

.....編集後記.....

◆1990年から続いている雲仙普賢岳の噴火活動や、多くの被害を出した北海道南西沖地震、大水、冷害など、今年も自然災害が続きました。被災者の皆様には心からお見舞い申し上げます。

◆今月号は、5月に発生した北海道南西沖地震の直後の取り組みを中心に地震関連の記事を集めてみました。地震直後の復興活動もままならないときに、現地調査に入って被災者の方々にご迷惑をおかけしました。皆様のご協力で、地震直後でなければ得られないデータがとれました。噴砂の証拠などは大雨が降っただけでも不鮮明になります。

◆今回は白嶺丸が近くの海域にいたため、計画を変更して震源海域に急行して、余震の続くうちに海底地震計とサイドスキャンソナーなど最新観測機器による測定を行いました。その概要を報告してもらいました。

◆伊豆半島の地震では温泉が集中しているという特徴から、アンケートというクラシックな方法も効果

を上げます。

◆日本列島も現象を理解するには、条件の違う外国との協力も必要不可欠です。トルコとインドの協力の例をまとめてもらいました。なお、昨年京都で開かれたIGCの開会式の通産大臣の挨拶での世界自然災害図の提案を受けて、今年の6月には自然災害図の国際会議が各国の研究者を集めて、つくばで開かれました。

◆地球科学は進歩したようで、いざ予知・予測となるとまだまだ無力な存在であることを実感します。さまざまな機器を用いた総合的なデータの蓄積と、そのデータを用いた基本メカニズムに関する大胆な解釈が必要のようです。広く理解を得て研究を進めるために、分かりやすく説明することは欠かすことができません。地質ニュースも地球科学の普及に役に立つように努力します。

幹事 奥村公男 記

原稿募集中

執筆にあたっては、1993年8月号(no. 468)68-69ページに掲載した「手引き」を参照してください。

地質ニュース編集委員会

委員長：小玉喜三郎

顧問：林 暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋 博

副委員長：佐藤興平

幹事：宮崎光旗・奥村公男・石井武政

委員：今井 登・岡村行信・杉原光彦・内田利弘・

花岡尚之・鈴木尉元・神谷雅晴・吉井守正

事務局：総務部業務課広報係（中島秀記・清水真寿美）

〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所

地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3533

地 質 ニ ュ ー ス

第471号 1993年 11月号

定価 ￥770 千実費

1993年11月1日 発行

編 集

発行人

発行所

工業技術院地質調査所

林 久 雄

株式会社実業公報社

東京都千代田区九段北1の7の8

〒102

Tel. (03)3265-0951 (代表)

振替口座 東京 1-32466

麹町局私書箱第21号

印 刷

小宮山印刷工業株式会社

©1993 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の豊が関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター(株)本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。品切れの際は店頭で注文してください。

地質ニュースに対するご意見は編集委員会へ